

資源の循環利用をどのように進めているのですか？

投入する資源の量から削減するリデュース、できるだけ廃棄物とならないように長く使い続けるリユース、再資源化して使うリサイクルという、より上流からの対応によって、循環型社会構築への取り組みを進めています。

資源循環への取り組み

廃棄物リサイクルの状況

鉄道事業からは、列車や駅からの一般廃棄物や、車両工場からの産業廃棄物など、さまざまな廃棄物が排出されます。

JR東日本が2003年度に排出した廃棄物は73万トン。このうち88%をリユース・リサイクルしました。廃棄物量は、その排出の大きな割合を占める施設工事の内容が年度ごとに異なるため、単純に比較することはできません。しかしリサイクル率については、廃棄物の種類ごとに2005年度までの達成目標を定め、それに向けてさまざまな取り組みを実施しています。

駅・列車におけるリサイクル

JR東日本を利用するお客さまは1日平均約1,600万人。駅や列車で排出されるゴミは2003年度で4.9万トンにも及びます。これは12万人が1年間に一般家庭で出すゴミの量に匹敵します。しかし、このなかには新聞や雑誌、空き缶などの資源ゴミも含まれているため、分別を徹底しリサイクルすることが大切です。JR東日本では、駅に分別ゴミ箱を設置するほか、収集後の分別を徹底するためにリサイクルセンターを設けています。2005年度までにリサイクル率40%の達成を目標としていますが、2003年度には39%となりました。

リサイクルセンターの活用

駅・列車からの廃棄物が特に多い首都圏では、リサイクルセンターを設置して対応しています。(株)東日本環境アクセスが運営している施設で、上野駅と大宮、新木場の3カ所にあります。上野駅と大宮のリサイクルセンターでは2003年度、東京都内と埼玉県内から空き缶・ビン3,047トン、ペットボトル662トンを分別・圧縮し、再生業者に送りました。新木場のリサイクルセンターでは2003年度、集積した新聞・雑誌6,630トンを製紙工場へ送り、コピー用紙にリサイクルしました。この用紙をJR東日本のオフィスで使用する循環利用のしくみを構築しています。

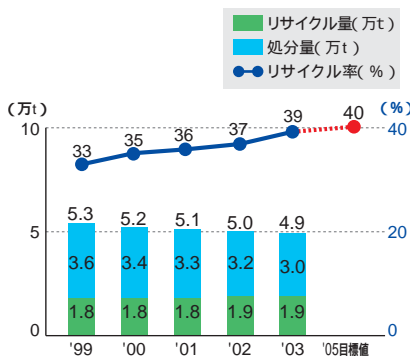


新木場のリサイクルセンターでは、コピー用紙にリサイクルするために新聞や雑誌ゴミを分別・圧縮しています

切符と定期券のリサイクル

切符の裏面には鉄粉を塗っていますが、紙と鉄粉を分離する技術により、リサイクルが可能になっています。JR東日本では回収した切符を製紙工場へ送り、2003年度には760トンのうち99.9%を、トイレトーパーや段ボール、名刺用紙にリサイクルしました。使用済み磁気定期券については、これまで回収した一部を製鉄所の高炉還元剤として再利用していましたが、2003年8月から回収した全ての磁気定期券を固形燃料として再利用することとしました。切符や定期券の廃棄物削減につながるチケットレス化については、ICカード「Suica」の普及を進めており、ご利用者数は2004年6月に900万人を超えました。

駅・列車のゴミの推移



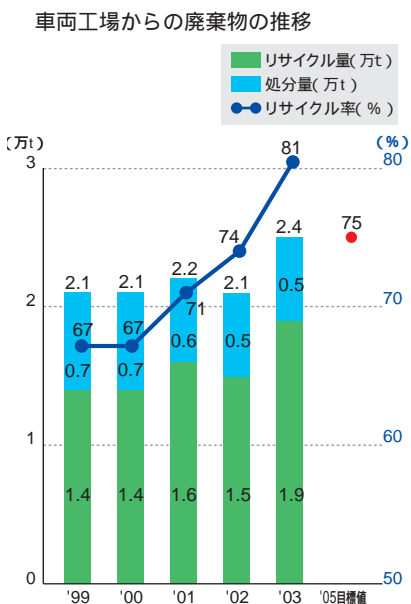
ご利用しやすく安全な駅づくりと、リサイクル推進を目的に、透明ゴミ箱を設置



使用済み切符は、名刺や段ボール、トイレトーパーとして再利用しています

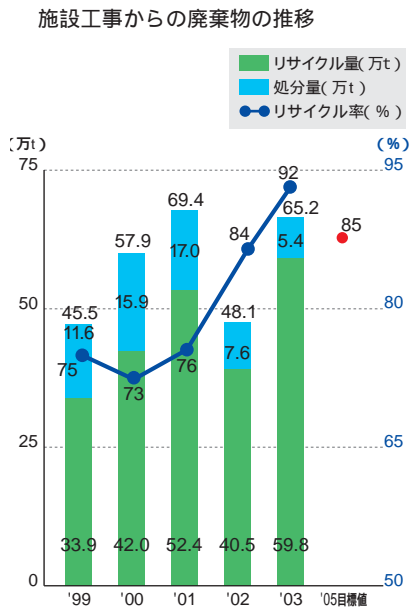
車両工場におけるリサイクル

JR東日本では、新津車両製作所で通勤・近郊型電車を製造し、そのほか7カ所の総合車両センターなどで車両の整備や修繕を行っています。廃棄物の減量とリサイクルを進めるため、素材をリサイクルしやすい部材に切り替えるなど、車両設計時からライフサイクル全体を考えた対応をしています。各総合車両センターでは廃棄物を20～30種類に分別し、専門の回収業者に送るほか、鉄くずを溶解してブレーキ部品に再生したり、廃棄車輪を加工してブレーキディスク座へ再利用したりするなど、独自のリサイクルも行っています。



施設工事における廃棄物削減

駅や構造物における施設工事では、受託工事¹による9万トンを含めて、2003年度には65万トンの廃棄物が発生しました。廃棄物処理法上は工事の請負業者が排出事業者になりますが、JR東日本も発注者として、土木工事標準仕様書などを通じて、建設副産物の適正処理や廃棄物を抑制する設計・工法を規定し、廃棄物削減に取り組んでいます。



車両の整備や修繕、解体を行う車両工場でもリサイクルを推進

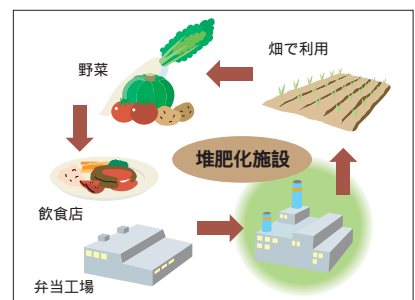
小売・飲食における取り組み

駅構内では、主に東日本キヨスク(株)や(株)日本レストランエンタプライズ(NRE)などのグループ会社が小売や飲食のサービスを提供しており、各社がレジ袋や梱包材の削減に取り組んでいます。

駅弁については、容器包装の簡素化も図っており、NREでは2002年から一部で「エコ弁当容器」²の使用を始めています。

食品ゴミのリサイクルも推進しており、「グランドデュオ(立川)や「ロンロン(吉祥寺)では堆肥化施設をビル内に設置しています。またNREでは、同様のしくみにより、2003年度において食品ゴミを191トンの堆肥へ再生し、自社の有機リサイクル農園や契約農家で使用しました。そこで生産した無農薬・無化学肥料野菜を、飲食店などで食材として利用する循環のしくみを構築しています。

生ゴミ再生フロー図



1 受託工事

列車の安全運行の確保などのために、JR東日本が自治体などから委託を受けて行う社外施設の工事。

2 エコ弁当容器

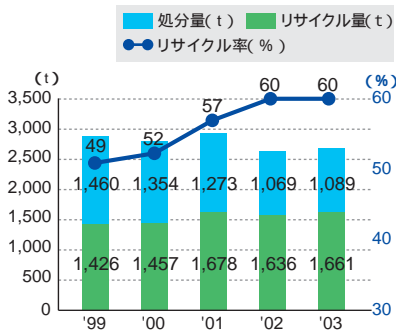
はがせるフィルムを装着した容器で、フィルム以外は容器として再利用可能。

環境

オフィスにおける取り組み

オフィスでは、さまざまな対策によりペーパーレス化を推進するとともに、廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。分別を徹底することで、2003年度には廃棄物2,749トンのうち1,661トンをリサイクルしました。

オフィスからの廃棄物の推移



水資源の有効利用

JR東日本では1,170万トンの水資源を使用しているため、中水¹の利用を積極的に進めており、雨水や手洗い水をトイレの

洗浄水として再利用しています。本社ビルでは2003年度に使用した4万2,000トンの水のうち、2万トンを再利用しました。

医療系廃棄物の適正処理

JR東京総合病院やJR仙台病院で、地域の皆さまや社員へ医療サービスを提供しています。また、JR東日本健康推進センター、各支社の鉄道健診センターで社員の健康診断などを行っています。これらの医療施設からは2003年度には102トンの医療系廃棄物が発生していますが、特別管理産業廃棄物として厳重に保管・処理しています。

グリーン調達

1999年に定めた「グリーン調達ガイドライン」に基づき、資材調達の際に環境負荷が小さい製品を選ぶよう努めると同時に、再生材料の使用や廃棄物の減量化な

どを取引先さまに依頼しています。2000年度からペットボトルなどの再生ポリエステル繊維を利用した制服を採用していますが、2003年度も、リニューアルした夏服や盛夏シャツへの採用を進めました。また、オフィスで使用する事務用品においては、43%の品目がグリーン購入対象物品となっており、コピー用紙も全社使用量の99%が再生紙で占められています。

さらに、2004年度からJR東日本の資材調達先となる取引先さまについて、環境およびCSRの取り組み状況の把握を開始しました。



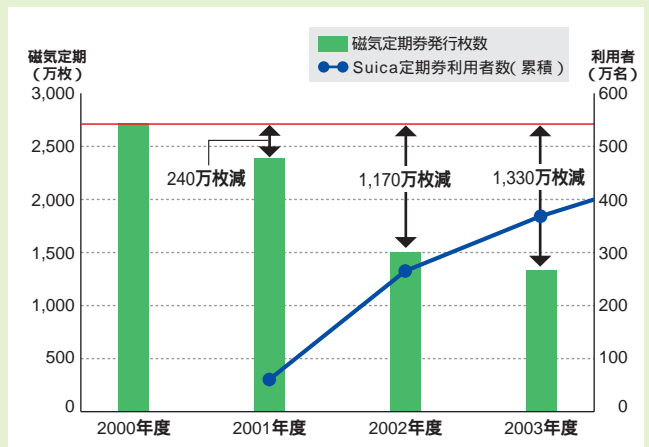
新しい制服(夏服)も、ペットボトルからリサイクルした再生ポリエステル繊維を一部使用

リユース可能な定期券「Suica定期券」

Suica定期券は継続購入する際、同じ定期券を書き換えて繰り返し使用できる「リユース可能な定期券」という特徴があります。このため、Suica定期券の普及が進むほど、資源の投入を減らすことができます。

例えば、Suica導入前の2000年度の磁気定期券の年間発行枚数(約2,660万枚)を基準にすると、Suica導入後の2001年11月から2003年3月末までの累計で磁気定期券発行枚数は約2,740万枚削減されました。

これは、Suica定期券発行枚数400万枚を大幅に上回る削減であり、リユース可能なSuica定期券の特性が発揮されています。



¹ 中水

上水と下水の中間に位置付けられる水の用途。水をリサイクルして限定した用途に利用するもの。